

なきごえ



1974

3

大 阪 市
天王寺動物園協会

動物と私

深田 祝

私も皆さん方と同じように、ただなんとなく動物好きである。学生に動物学を講じ、かつ動物を飼っている毎日である。いまは冬で私の飼っている蛇はインドニシキヘビを除きすべて冬眠中である。昨日これら冬眠中のもの約50匹を点検したところ、アオダイショウの子とマムシの子が1匹ずつ死んでいたがその他に異常はなかった。爬虫類は冬眠するので冬は手がかからなくて楽であるが、冬眠を無事にすごさせるためには9・10月に十分に餌を与えて健康状態を最良にもってゆく必要がある。マムシの子の冬眠はどうもむつかしい。先日ある薬用酒の会社の方が来てマムシ増殖についてのお智恵を拝借したいという。これは大変むつかしい問題で、この解決はマムシ保護の上からも重要であるので、私もかねがね強い関心をもってはいるが未だに良い方法が見つかっていない。増殖をはかるためには、まず生れた子をすべて元気に育てることが第一歩である。ところが飼育下ではマムシの子は最初の冬眠の前後に殆んどが死亡し、翌年春まで生き残るものは少い。今冬も3匹の子のうち残念ながら1匹が死んでしまったのである。ヤマカガシやシマヘビの子は飼育下でもよく育つ。飼育の要点は餌を十分に与えること。飼育場所を選ぶこと、すなわち日があたるところでもよいかくれ場所のあること。飼育箱は小さくてもよいが1つの箱には少数しか飼わないこと、以上の要点を守れば2～3年で成熟し産卵する。アオダイショウの子にはマウスを与えるが、最初のうちは強制給餌が便利である。私もこのごろようやくアオダイショウの子を育成して交尾産卵させることができるようになった。いまこの方法を岩国市の天然記念物シロヘビの子の育成に一部応用してもらっている。これにひきかえマムシの子の育成、ことに冬眠についてはもっと研究する必要がある。

私が動物、特に蛇が好きになったきっかけは何かと考えてみると、どうも父の影響があったように思われる。私がまだ小学生のころ、庭に小さい蛇が出た、いまに思うとアオダイショウの子であったが、可愛いので捕えようとしたがどうも咬まれそうで

手を出しかねていた、すると父が長い火箸をもってきて難なく捕え箱に入れてくれた。これが蛇と私の最初の出会であったようである。父は哲学者であったが動物にも温かい関心をもっていたのである。私は高等蚕糸学校に入ってから虫とのつきあいが深まったが、一方馬術部



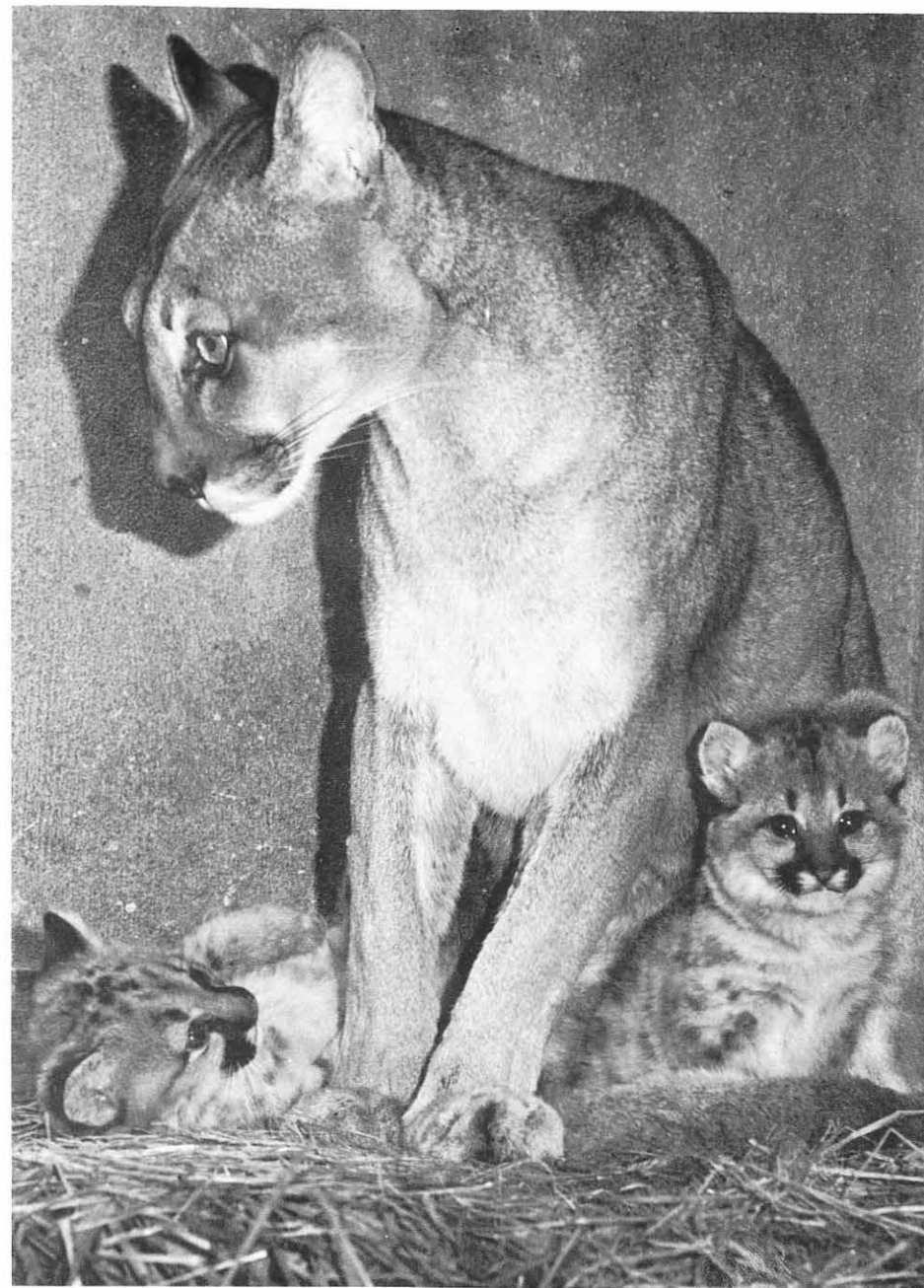
に入り馬との接触が始まる。当時は騎兵隊や野砲隊などに軍馬が沢山いて、学生の乗馬には大変な便宜が与えられていて、われわれは日曜日ごとに軍馬に親しんでいたものである。イノシシやウマなどの頭骨標本を作りまたニシキヘビを解剖したのもこのころであった。さらに牧茂市郎先生に出会ったのもこのころである。当時先生は京大理学部動物学教室で蛇の分類の研究をしておられ、その後「日本蛇類図譜」という大著を完成された蛇の大家である。いつであったか、牧先生が私に語ったことばがある「私は蛇がこわいので採集に行くときはだれか人をつれて行く。山を歩いていて蛇に出会うと私は一瞬ギクリとする、するとその人がすぐにとびだして蛇を捕えてくれる」。私はこれは先生が私をからかって言ったことばだとばかり思っていた。先生はいつもなれた手つきで蛇を扱っておられたからである。その後私は軍隊に入り台湾南部の屏東に駐屯したことがある。このときになってはじめて牧先生のことばを実感として味わった。ここでは殆んどが毒蛇でしかも野外では何という種類なのか一寸見当もつかない。とても危険で手を伸べて捕えるなどということはできなかった。こわさが身にしみたのである。

むかし話ばかり書くようになって、どうやら私も年をとったようである。(京都教育大学教授)

表紙の写真説明

“ダチョウ”

鳥の中では、一番大きい、アフリカの平原にすんでいて、シマウマなどと走りまわっています。おすは、黒い羽毛(右)めすは灰色の羽毛をしています。



“ピューマの赤ちゃん”

生まれて、1カ月あまり、母親は、育児のベテランなので、すくすく成長しました。もうすぐ皆さんにお目見得します。

なきごえ3月号もくじ

動物と私	2
ピューマの赤ちゃん	3
動物園グラフィック	4・5
カンムリヅルの人工育雛	6・7
トビ	8
韓国の動物園を訪ねて	9
動物相談室	10
動物園ニュース	11



↑拍手、はたして、ステージでは子供たちの拍手をいたゞけるか…。

動物園グラフ

“チンパンジー”

入園2年目を迎えたチンパンジーのさくらちゃんは、この春から、いよいよステージにたつことになりました。それで、このところ、芸をおぼえるため、けんめいに勉強しているところです。



↑テーブルマナー
お座りをしてホークで好物の果物を食べる



↑ボールころがし

カタカタ押し
オヤオヤ、かみついては
いけませんよ！



1・2月の動物園日記

- 1/22. ストライプキングスネークが死亡しました。
- 23. 長居公園へアヒル10羽を寄贈しました。
- 24. メンヨウが1頭出産しました。
- 26. アグーチのオスが肺炎をおこして死亡しました。
- 27. 昨年入園したシロクマのメスが採食も悪く、元気がないので治療しています。
- 29. 1月14日に入園したアシカ2匹を8匹の仲間が居る池へ一緒に放してやりました。クロサイのオスが元気がなくなり、消化不良の便を出すので治療しています。

- 30. オオバタンのメスが衰弱して死亡しました。ヒクイドリが寒さのために採食が悪く、寝室に入れて治療中です。
- 31. 昨年生まれたクロエリハクチョウのヒナ3羽を親から離して、日本庭園の池に放してやりました。
- 2/1. ラッパドリのメスがコクシジウム症で死亡しました。
- 2. ダチョウのオスが右足を打撲したらしくびっこをひいています。
- 4. メンヨウが又、1頭誕生しました。アナグマが仲間咬まれて死亡しました。ジャッカル、ヌクテの両方で交尾がみられまし

- た。約2ヶ月後に両方にかわいい赤ちゃんが生まれることでしょう。
- 9. ラマのオスが隣のラクダに背中をすこし噛まれたのですが、大したこともなく、3~4日ぐらいで元気になりました。
- 10. サイ舎の電気暖房が故障しましたので、応急に石油ストーブをつけ、敷ワラも多くして保温に努めています。
- 12. モナザルのメスが肺炎で死亡しました。ホホアカカムリヅルのオスが打撲症で死亡しました。
- 13. ビューマの若いメスが1週間ほど餌も食べず元気がなかったのですが、カゼをひいたらしくのどが

- ゼイゼイ鳴っているもので、麻酔銃を使って抗生物質などの薬を与えました。
- 16. ビューマの若いメスは餌も食べるようになり良好です。又、クロサイのオスも大分元気になり便も良くなってきました。1月2日に生まれたライオンの仔3頭を放飼場に放し、父ライオンと対面させました。
- 19. コンゴウインコ1羽の寄贈がありました。シロクマ(メス)の駆虫をしてやりました。たくさん回虫が出て、食欲も元気もよくなってきました。
- 22. アグーチ(メス)が1頭咬まれて死亡しました。
- 25. ヤギが1頭(オス)出産しました。

カンムリヅルの人工育芻

丸本 守

昭和48年9月27日に当園では初めてのカンムリヅルが2羽孵化しました。2羽のヒナはすぐ引き取り、1羽はまもなく死亡しましたが、残り1羽を人工育芻によって今日まで育ててきました。その飼育過程における若干の観察記録を以下に述べさせていただきます。

○親鳥

オス：ホホアカカンムリヅル 昭和34年3月10日
入園

メス：ホホジロカンムリヅル 昭和34年11月23日
入園

この2羽は別々に入園しており、48年7月中頃より巣作りを始めるまで全く互いに無関心で、一緒に行動を取ったことはなかった。

○飼育場所

北園水禽放養舎（昭和39年12月完成）東西26m 南北29m、高さ12m 約800㎡

この収容場所はシュバシコウをはじめ水禽、鶉類など50種200点の多くの鳥類が同居しています。

○営巣

昭和48年7月中頃よりシュバシコウ用に設けてある巣（高さ8m、直径1.5mの人工巣）に2羽と一緒にとまっているのが見られるようになりました。ツル類の一般習性としては地面に直接営巣するのですが、先にも述べましたように地上は非常な過密状態のため、やむにやまねず地上8mの巣に営巣したものとされます。

○産卵・孵化

当初、まさかあんな高い所で産卵するとは思ってもしなかつたので、産卵日の期日は正確には分かりませんが、多分8月20～8月末頃と思われます。9月に入って本格的な抱卵を始めたため、私が巣に登って巣内をのぞきこみ、薄青色の卵2個を確認しました。孵化した場合、ヒナが歩き回って墜落死亡することが当然考えられるため、孵化後はすぐ引き取ることに予定していました。毎日巣内をのぞきこんで



確認していましたら、9月27日朝、2羽のヒナがかえっているのを見つけました。しかも1羽は巣の内を早くも歩きまわっていました。私は生命誕生の感激も忘れて、ただ墜落死という恐怖の念ばかりで一杯で、夢中でヒナを抱いて巣から降りてきました。

○人工育芻

すぐに人工育芻に入ったわけですが、歩くことのまだできなかった方のヒナは、惜しくも2日目に死んでしまいました。温度は27℃～34℃の範囲に保ち約1/2立方の育雛箱に入れました。

3日目までは1時間から1時間半位の間隔で強制さし餌をしました。餌は主にミルウォーム、コオロギ、ミミズなどです。昼間はできるだけ屋外に出し、日光浴を十分にさせました。

4日目からコオロギ、ミルウォームは、さし出した指から直接ひろって食べるようになりました。ミミズもピンセットでつまんでさし出してやると、同じく食べました。

5日目からフラミンゴフードを与えると、非常に

気に入ったらしく盛んな食欲を示しました。又、パン、ドジョウも与えましたが、さほど好みませんでした。

9日目からは、今まで毎回の食事をさし餌で行ってきたのを少しずつ置き餌にも慣らそうと、パン、フラミンゴフード、青菜を鉢に入れてやりました。少量ですが食べるようでした。育雛箱から時折出してやると、私の歩く後を一生懸命ついて来ました。この日、始めて私と共に水禽放養舎内を歩いてみましたが、他の鳥には目もくれず、私の後をころがるようになってきました。2羽の親鳥は本能的に感じるのか、ヒナの近くに寄って来て、私を含める他の外敵に対し盛んに威嚇行動を示すにはびっくりしました。この日ハッピーと名前をつけてやりました。

16日目に育雛箱が手狭まになってきたので、水禽放養舎の中に敷地6㎡位の小屋を作ってやり、そこに移しました。夜間はもちろん昼間でも寒い時はヒヨコ電球による保温は欠かしませんでした。この頃から筆毛が3cmほど伸びてきました。閉園後、水禽放養舎から出して園内を散歩するのも日課の1つになりました。ハッピーを屋外の育雛室に移したことによって、両親は絶えず金網ごしながら接触できるようになり、愛情も一層増したようで昼夜をとわず、ハッピーの小屋の前をうろうろするようになりました。

40日目頃から好物だったコオロギ、ミルウォームの食べる量も減り、又、ドジョウ、ミミズなども以前ほど好まなくなり、代ってフナの切り味をよく食べるようになりました。主食はフラミンゴフードでパン、青菜、それにフナの切り味がこの頃の1日の献立でした。そして私がハッピーに餌をやったり、世話をしている時に、母親鳥が背中に飛び乗って攻撃をしてきたのもこの頃でした。

45日目から1日1、2時間ハッピーを外に出し、親に任せきりにしてみました。ハッピーが親について歩かず、親がハッピーの後をついてまわるという感じでした。他人が見たら全く自然な親子として見え、とても人工で育雛したとは思われないことでし

よう。

80日目位から開園時間中はずっと外に出して親に任せておき、2時間おきぐらいにフナなどを与えに行く程度にしました。又、この頃から主食だったフラミンゴフードを好まなくなってきました。羽ばたくとわずかに浮き上がることもできるようになり、園内の散歩もこの頃までには中止していました。

95日目、親と一緒に歩きながら養鶏用配合飼料を食べるようになりました。

99日目位から、夜間の置き餌の中米を好むようになり、パンはほとんど食べなくなりました。昼間は両親に任せきりですが、この両親はハッピーに近づくあらゆる鳥を追払うため、この両親と気の強い鳥の間で抗争が起こったのもこの頃です。この放養舎の中で一番強いのはクロヅルでしたが、ハッピーの両親は前後から協力して襲いかかり、難敵のクロヅルをしりぞけました。子に対する愛情がこれほどの強い力を発揮するものだと、私はただ驚くばかりです。

132日目頃、1日1回は放養舎の中を2周ほどごちなく飛び回るようになりました。体格はもう親とほとんど同じ位の大きさになりましたが、羽色はまだヒナの要素が多く残っているみたいです。

この文を書いている現在（140日目）では、朝の掃除をしている時には、ハッピーは私の後をつき従って来ますが、親はヒナを取られまいと私に対しさかんに威嚇します。ハッピー自身は親鳥を親とは思わず、仲間と思っているようです。しかし、私が掃除を終えて舎外に出ると、ハッピーは両親と仲よく餌をあさったり、散歩をしたりしています。このようにして朝から夕方まで両親と一緒にしておき、夜間のみ育雛室に入れ保温しています。

以上、現在までの人工育雛の過程を述べてみましたが、今後どのように成長し、ホホの色が何色になるか、など興味深い点で一杯です。又、私をいつまで親のように慕ってくれるか、ということも興味のある半面、心配の種でもあります。

（動物園飼育係）

門 阪 保 昌

私はトビが大好きです。私がトビに興味を持ち出したのは約2年前のことでした。福井県越前方面で車にはねられた片羽根骨折のトビを友人が持ち帰ったことに始まります。そのトビは片羽根のつけねから折れて見るも無残な姿でした。誰も飼う気がなさそうだったので、私がひきとり、医者を訪ねたり、薬で治療しましたが、うまくいかず、動物園にたのみ手術までしましたが、やはり、だめでした。それからというもの私とトビとは毎日の生活から、いや頭の中からはなれなくなりました。他の動物にも小さい頃から興味をもっていた私でしたが、ワシ、タカの仲間特に気をひかれたのはこの頃でした。さっそく福井県越前の東尋坊へトビのために仕事を休んで、家族全員で出かけました。大阪附近に姿さえ見えないこの鳥が海岸や人家にたくさんとまっているのです。土地の人から見れば、うるさい鳥、害鳥のように思われているのです。保護鳥ということで私も気持をおさえてこの鳥の観察旅行をあきらめたことも2〜3度ありました。この間、官庁に問い合せて飼養許可とか捕獲許可など、いろいろと問い合せましたが、その対応ぶりは、まるで無愛想で、半ば犯人扱い、なにか悪いことでもしたかの如くの返答ばかりでした。彼らは、心から鳥を愛し興味を持っている者と営利目的や殺傷するものとの区別をはっきりさせて、人に迷惑のかけない愛鳥家には心よく相談に応じられないものではないでしょうか。保護鳥、といいながらもが保護かとい、たくなるのです。空港害鳥として1日に6羽以上も自衛隊に射殺されていたり、警官が制服でしばき落したりするのです。私は、もっと設備のととのっているところなら殺さないで飼ってやりたかったと思います。1羽そこそこの許可申請もためらわすような法律はあってもなくてもさほどかわらぬと感ずるのです。毎日、トビの

顔を見ていると、昔からトビがタカを産む、などとワシ、タカの仲間でもバカ鳥のように呼ばれているのですが、決してそのようなことは感じられない。人の顔もよく覚えるトビさえいる。私の姿を見たり声を聞くとそれに返答する。鳴き声はあのピーヨロを1回から数回くり返すのである。ワシタカ類で1番よい声でなくと私は思う。

トビは他の飼鳥と違って猛禽のためか、電気の照明はもちろん、人間が暗いところでもある程度見えるようにトビも見えるらしいのです。そして、食いだめすることができるようで、8〜10日何も食べなくても生きて平気でいられます。こういう飢えのときがなつかせ、物を覚えさせる一番のチャンスなのです。そして、野生の親鳥は、人間の手の動きが特にいやがる。指先など慣れるまで警戒し、体をさわられることも嫌う。糞をする時は、おしりを上にあげて、いきおいよく飛ばす。飢えているときは、あまり飛ばない。水を一滴も飲まなくても1カ月以上平気でいられます。小屋の中で眠るときは、入口を背にして眠るのが多い。鳴くのは、毎日時間通りに鳴くし、飼主を見たときとか、声をかけるとかした時にも鳴くのである。飢えたときは一にぎりの肉をうのみすることがあります。

野生のトビのいるところは、やはり、日本海に面した地方でよく見られますが、大阪近くでは三重、滋賀、和歌山が多くいる。大阪には、最近3年間一度も見たことがないのに、今年に入ってたゞ一度、生駒山西側の大空をせん回しているのを見かけました。

私は、家族の応援も得て、トビ、タカの出る番組はできるだけ見えています。自然のアルバム、日本の自然、野生の王国、驚異の世界などです。

雪がとけたら、鳥取や島根、新潟、福井方面にトビの姿を求めて旅行したいと思っています。

(愛鳥家)

韓国の動物園を訪ねて

三 浦 正 明

大阪から空路約1時間半、ソウルの金浦空港に到着、大韓民国の首都ソウルは人口600万人の大都会です。近代的なビル群、それにうまくとけ込んだ古い宮殿、ソウルは新旧、調和のとれた美しい都市です。

昨年、私は幸いにも3度の訪韓の機会を得て、韓国の動物園を見学することができました。日本と韓国は、歴史的にも関係が古く良き隣国です。しかし、戦前は、日本の統治、戦後は南北分離と韓国民にとっては悲劇の連続です。その苦難にもめげず建国のため韓国民はがんばっているようです。韓国には、現在、動物園が4園あります。首都ソウル特別市には国立昌慶苑動物園、慶尚北道大邱市に市立達城動物園、全羅南道光州市に光州市立社稷動物園、釜山直轄市には、民間の動物園があります。昌慶苑動物園は、ソウル市内から車で約30分の郊外にあり、周囲には秘苑、昌慶苑などの国宝級の宮殿、博物館、植物園、遊園地があります。園内には樹木、草花が豊富で、カササギが多く乱舞するのが見られました。

昌慶苑動物園は、1909年開園で、今年で65年目になります。東洋では、東京の上野動物園に次いで2番目に古い動物園だそうです。この園の動物収容数は、哺乳類が58種177点、鳥類が80種556点、は虫類6種12点で合計144種745点です。この園の自慢は、広い水禽放養場です。これは中心に高い支柱を立て、網を張った、サーカスのテントに似た型です。この放養場には、タンチョウをはじめ、ガンカモ類、サギ類、カモメ類、キジ類がいました。また、鉄筋



昌慶苑内の明政殿



昌慶苑のカバ舎

3階建の立派な動物舎もあります。地下には、ボイラー室、調理場、飼料倉庫があり、1階には、インドゾウ、類人猿舎、2階には、は虫類、キジ、サル舎が、また3階には事務所、宿直室があり、なかなか近代的なものでした。また、この園のフラミンゴ・ショーは有名で、チリーフラミンゴ約100羽が収容されています。

昌慶苑と天王寺動物園とは過去数回親善動物交換を行っており、ヌクテ(チョウセンオオカミ)をはじめワシミズク、トクスリ(チョウセンハゲワシ)などが入園しています。

大邱達城動物園は、首都ソウルから京釜線で約3時間、東大邱駅を降りて車で15分ばかりのところにあります。園内は芝生が美しく、動物舎とうまく調和しています。この園は、ライオン放飼場、トラ放飼場、水禽類の無柵放飼場があり、美しい動物園です。

光州社稷動物園は、全羅南道の中心地光州市にあり、ソウルから飛行機で約1時間のところへ丘の上に位置し、樹木の豊富な環境の良い所にあります。韓国特産のイノシシ、ヌクテ、ハゲワシ、ヤマネコ、ワシミズクが多数飼育されています。

釜山の金剛動物園の自慢は、韓国の全鳥獣のハク製の展示です。その他珍しい動物も飼育され美しい動物園です。この4園の他に、ソウル近郊に、ソウル特別市立子供大公園があります。子供動物園、植物園、遊戯場が昨年5月5日の子供の日にオープンしました。

韓国の全動物園を見学して強く印象を受けたことは、園内にゴミが落ちていなく美しい事と、入園者のマナーが良いことの2点でした。(動物園飼育係)

動物相談室

今回は12月末から2月末までに受けた動物相談の中から、特に多かったものを掲載してみました。

○小鳥の病気について

1. 感冒

小鳥が羽毛を逆立てて元気なくなり、時々クシャミをしたり鼻汁を出したりするという相談がたくさんありましたが、こういう症状はまずカゼをひいたとみてさしつかえないでしょう。こういう場合はまず病鳥を隔離し、保温（30℃位）してやるのが第一です。次に必要ならば薬を与えることも良いことです。サルファ剤や小鳥用の薬として抗生物質とビタミン剤を混ぜたものが市販されていますから、飲み水や餌にまぜて与えて下さい。食欲は減退していますから、好物の副食や栄養価の高い粟卵などを与えて、安静にしてあげてください。

2. 卵づまり

これはフィンチ類によくみられる病気で、産卵日のきているメスが卵がつまって出ないことで、メスは体をふくらまして呼吸も荒く、重症では疲労のために死ぬ場合もあります。外から下腹部にふれると固いものがあります。これが卵です。治療法としては、保温すると共に肛門からオリーブ油のような油類をスポイドで注ぎこみ、外から軽く押出すようにマッサージしてやります。

この病気はボレー粉などを与えていないためにカルシウムが不足して起きるともいわれており、ボレー粉を毎日欠かさず与えると共に、青菜などたっぷり与えて健康に保つことが第一です。

3. ショック

最近、手のりの小鳥を飼う家が増えたようで、家の内で時々放して遊ばせているということをや

く聞きます。その際に足で踏んでしまったとか、ドアを閉める時にはさんでしまったとか、犬や猫などにおそわれたという相談をよく受けますがその際に外傷を受けるのはもちろんですが、ほとんどの小鳥が無気力の状態になって、餌も食わず重症例ではケイレンを起こしたり、呼吸困難になって死亡する場合があります。これは一種のショックによるものと思われます。こういう場合は初期に絶対安静に保ち冷水を飲ましたり、ブドウ酒などのアルコール類を飲ますと効果があるようです。特にこれといった効果のある治療法はないようで、後は安静と保温しか方法はありません。

○カメの冬の過ごしせ方

きびしい寒さもそろそろ峠を越そうという頃、いまだにカメが餌を食べないがどうしてか？という相談がよくあります。10月頃までは与える餌をなんでも食べたのに、11月頃からは食欲不振でやせ細ってきたというものです。これは当然のことで、カメなどのハ虫類や両生類は気温の変化に応じて自分の体温も変化させる変温動物です。10月頃から野外では冬眠状態に入るものが、屋内で飼えば大丈夫だろうと、冬眠もできないような設備の水槽などで飼うため、夜間などに室内の暖房も止まり、外気も冷えてカメの体調を著しく狂わせます。従って冬でもカメを冬眠させずに飼育したいのなら、25℃以上に温度を保ってやる必要があります。又、そういう保温設備がないというのであれば、寒くなる前に充分カメに栄養を取らせて、土、砂、枯葉などを厚く敷きつめ、冬眠用の設備を整えてやらねばなりません。5、6月頃に冬眠からさめるまで、時々乾燥しすぎないように、適度の湿り気を与えてやるだけで十分です。 (宮下 実)

従来の剥製イメージを
一掃!!

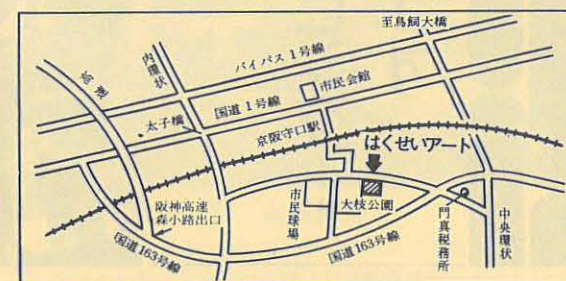


★各界注目の研究グループ! (TV出演)

はくせいアート

株式会社スガワ製作所

TEL 992-6497



グランド乾燥のパイオニア登場!!

どんな雨あがりでもすぐ試合、練習OK!!

10分でグランド、コートがカラッとします。

Hi-Dri ハイドライは独得の強力吸湿性と

ザックリした感触で

雨後のグランドを引締め、運動技能を損う不愉快なぬめり、ベタツキを除きさっと散布するだけで晴天のようなグランドコンディションを造りあげます。



輸入販売
株式会社

エンドル

北事務所 大阪市北区伊勢町9番地 TEL (06)364-3149
本 社 大阪府守口市東光町3丁目3番地 TEL (06)996-2245(代)

夢が広がるショッピング…
近鉄がお届けします



近鉄



動物園ニュース

☆ピューマの出産



1月18日にピューマの赤ちゃんが2頭生まれました。2頭共メスで、親は10度目の出産で、ベテランらしくうまく育てています。春の訪れと共に運動

場へ出して、お客さんに見てもらえることでしょう。

☆メンヨウ3匹トリオ

昨年12月31日にオス、今年に入って1月24日にメス、2月4日にオスと3頭のメンヨウが誕生しました。去年は1頭しか生まれておらず、1人ぼっちで遊んでいましたが、今年は3頭仲よくトリオを結成して毎日楽しそうです。



☆動物園の雪景色



2月11日午後、大阪には珍しく雪が降り続き、閉園まぎわの園内は一面の白銀の世界となりました。寒さに強い

トラは悠然と雪の上に寝そべっていましたが、寒さに弱いライオンは早く寝室へ入れてくれればかり大あわて。オオアライクイは雪見より食欲とばかり、食うことに専念。フラミンゴはこの白い物が食べられないものかと興味ありげ。その他園内各所で動物の雪に対するいろいろな反応が見られました。



☆元気になったタヌキ

昨年11月に奈良県天理市の県道で、車にはねられて気絶していたというタヌキ(メス)が当園に持込まれて来ました。見ると後肢の左大腿骨と右下腿骨が骨折しており、立つことも歩くこともできない状態でした。早速治療してやり、1ヶ月後にはどうやら歩くこともできるようになり、今年の1月から小獣舎のシロタヌキと一緒にしてやりました。今ではすっかり元気になって、走り回っています。



☆ライオンの仔、お目見得

今年1月2日に誕生したライオンの仔3頭(オス1、メス2)を、2月16日午後より放飼場に出しました。ヨチヨチと母親のユキの後を追いかけてじゃれ回ったり、父親のタカシと初対面したりして、広い放飼場一杯かけ回っています。その内、3頭の兄さん姉さんライオンとも顔を合わせていく予定です。



☆動物愛護週間と世界の家畜おもちゃ展

3月18日~24日は動物愛護週間です。その期間中の催しとして、3月21日に総合家畜動物慰霊祭を行います。これは昨年の10月から今年2月までに死亡した家畜動物の慰霊のための行事で、毎年春秋に行っております。又、この期間中に世界の家畜おもちゃ展を開きます。ウシ、ウマ、ヤギ、ニワトリなどの15種類の家畜のおもちゃを世界32ヶ国から集めたもので約130点展示します。出展者は寝屋川市のおもちゃの動物園長、吉田平七郎さんです。なお出展場所は北園の冷房ペンギン舎です。

なきごえ 昭和49年3月15日発行(毎月1回15日発行)第10巻第3号(通巻104号)

編集/大阪市天王寺動物園

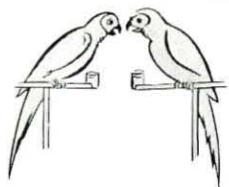
〒543 大阪市天王寺区玉水町2

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

電話 大阪(06)771-0201

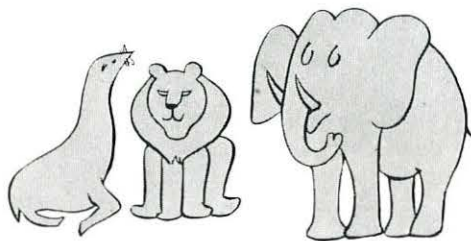
印刷所/株式会社 松村善進堂

振替口座 大阪 37823
定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

パイン・オレンジ・フルーツカクテル

各140c.c.=60円

編集委員

〈小谷 潔・林 邦彦・大野尊信・加幡一男・米田敏光・樽本 勲〉
〈田上 勝・中川道朗・農本武志・深井和美・東 政宏・宮下 実〉